

▼山ヶ谷古墳の現在の状況



▼山ヶ谷古墳から出土した三環鈴

●市内朝比奈地区



埋蔵文化財包蔵地 **山ヶ谷古墳**

History

キラリを再発見

県内で2例目の^{さんかんれい}三環鈴が出土

朝比奈地区上朝比奈山ヶ谷の丘陵の中腹から、明治時代の終わりごろに三環鈴と呼ばれる青銅製の鈴が発見されました。三環鈴は、これまでに県内では磐田市の二子塚古墳から1点、袋井市の愛野向山古墳から1点、静岡市の南沼上古墳から2点の計5点しか出土しておらず、全国でも90点ほどしか出土例がありません。山ヶ谷古墳の三環鈴は県内で2番目に発見された大変珍しい遺品です。

この三環鈴は、古墳の中心部付近に乗馬に必要な馬具と一緒に副葬されていることが多いのですが、どんな使い方をされたのか良くわかりません。山ヶ谷古墳があった場所は、現在では開墾されて茶畑になっています。国内で出土している三環鈴が造られた年代から推測すると、山ヶ谷古墳は6世紀の早い頃に造られたものと考えられます。

Atomic

暮らしと原子力

中川大臣が浜岡原発を視察

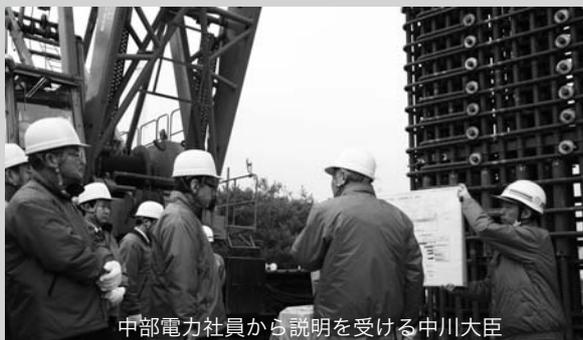
3月4日、中川正晴内閣府特命担当大臣(防災担当、新しい公共、少子化対策担当、男女共同参画担当)が、中部電力浜岡原子力発電所を訪れ、市、県関係者とともに、

中部電力が進める津波対策工事を視察しました。

防波壁設置工事の現場では、中部電力の担当者から、防波壁の構造や工事のスケジュールについて説明を受け、基礎部の鉄筋や工事の進行状況などを確認しました。

視察後、石原市長との意見交換では、東海、東南海、南海、日向灘沖などの連動地震の被害想定について、「国の中央防災会議の中であらためて検証し、対応については、この夏を目途に中間報告していきたい」と語りました。石原市長は「市としても、市民の安全、安心のために、

災害に強いまちづくりに努めている。国からも一層の支援をしてほしい」と要請しました。



中部電力社員から説明を受ける中川大臣

※浜岡原子力発電所の津波対策工事の進行状況は「御前崎ケーブルテレビ122チャンネル」で放映しています。